

造山帯で営まれる破壊と創造の ダイナミクスを大地に見る

栗原市は、市民と行政が一体となって、地域資源を生かし活力豊かな観光産業の育成を進めてきました。そのさ中、平成20年6月14日に栗駒火山の山麓で発生した岩手・宮城内陸地震では、最大震度6強を観測、日本最大級の荒砥沢(あらとざわ)ダム上流部地すべりをはじめとした未曾有の山地災害を引き起こし、地域は甚大な被害を受けました。

しかし、災害実体の調査が進むにつれて、数千万年～数万年という時間の中で生じる火山活動や地震、地すべり活動こそが地域の自然を育む原動力であり、私たちはその恩恵を享受していることを知ることとなりました。奥羽山脈の中核ともいえる栗駒山麓では、災害に対する普段の備えを強くし、このような地質イベントが生み出す多様な豊かな自然を賢く利用して生きていくことの必要性を痛感しました。

栗原市は、自然災害と共生し、豊穡な大地の物語を感じられるジオパークとして「災害に強い人づくり・地域づくり」を推進していきます。

ジオパークの持続的な発展に向けて

平成25年7月、市民と行政、民間団体、教育関係者などが一体となってジオパーク推進事業を本格始動するため、「栗駒山麓ジオパーク推進協議会」を発足しました。ジオパークによる、持続可能な地域づくりに向け、以下の取り組みを推進していきます。

- 後世に向けた地域の大切な地形・地質の保護・保全活動
- ジオサイト等の継続調査
- ビューポイントの選定及び整備
- 案内看板・説明板の設置
- ジオガイド養成、旅行会社と連携したジオツーリズムの推進
- 市民並びに企業への普及と啓発及び連携の推進
- 小・中学校へのふるさと学習、防災教育の場の提供
- 栗駒山麓ジオパーク特産商品「栗駒山麓のめぐみ」の認定、販売促進 など

栗駒山麓ジオパークビジターセンター

栗駒山麓ジオパークを学び、楽しむ、ジオの拠点施設



ビジターセンターでは、栗駒山麓ジオパークを学び、楽しむための展示が盛りだくさん。展示室では、パネルや映像でジオパークの魅力を楽しめるほか、栗駒山から伊豆沼・内沼までの約40kmの航空写真で、広大なジオパークの魅力に触れることができます。シアター室では、壁と床の二面巨大スクリーンで栗駒山の誕生物語や荒砥沢地すべりの様子などを大迫力で体感できます。私たちの暮らしと大自然との関わりについて触れてみましょう。

- 所在地 宮城県栗原市栗駒松倉東貴船5
- 開館時間 9:00~17:00/9:00~16:00 (12~2月)
- 休館日 火曜日(祝日の場合は翌日)
年未年始(12月29日~1月3日)
- 入館料 無料

栗駒山麓ジオパーク の歩み

- | | | |
|-------|--------------|---------------------------------------|
| 2008. | 6. 14 | 平成20年岩手・宮城内陸地震発生 |
| 2009. | 5. 10 | 荒砥沢ダム上流部地すべりが日本の地質百選に認定 |
| 2010. | 3. 5. 24 | 自主防災組織率100%達成
栗駒山麓崩落地・景観活用検討委員会設立 |
| | 6. 13 | 駒の湯温泉慰霊碑建立 |
| 2011. | 3. 11 | 東日本大震災 |
| | 6. 1 | 栗駒山麓崩落地・景観活用将来ビジョンの提言 |
| | 7. 7 | ゆっくりひとめぐり栗駒山麓連絡会議設立 |
| | 11. 9 | 栗駒、花山地区に慰霊碑建立 |
| 2012. | 2. 5. 11 -14 | ジオパーク宣言
第5回ジオパーク国際ユネスコ会議参加(長崎県島原市) |
| | 7. 7 | JGN準会員 ※栗駒山麓ジオパーク推進庁内検討プロジェクトチーム設置 |
| | 11. 2 -5 | 第3回日本ジオパーク全国大会室戸大会参加 |
| 2013. | 7. 7 | 栗駒山麓ジオパーク推進協議会設立 |
| | 10. 15 -17 | 第4回日本ジオパーク全国大会隠岐大会参加 |
| | 10. 21 | 栗原市ジオパーク推進室設置 |
| 2014. | 3. 21 | 栗駒山麓ジオパーク推進協議会設立 |
| | 5. 22 | 栗駒山麓ジオパーク構想ロゴ・マーク決定 |
| | 7. 7 | 栗駒山麓ジオパークフェイスブックページ運用開始 |
| | 9. 27 -30 | 第5回日本ジオパーク全国大会南アルプス大会参加 |
| 2015. | 4. 16 | JGN加盟申請書提出 |
| | 5. 23 | JGN新規申請地域プレゼンテーション実施 |
| | 7. 7 | 栗駒山麓ジオサポーター制度創設 |
| | 7. 28 -30 | JGN新規申請地域現地調査 |
| | 9. 4 | 日本ジオパーク認定 |
| | 10. 27 -29 | 第6回日本ジオパーク全国大会霧島大会参加(日本ジオパーク認定証授与) |
| 2016. | 3. 27 | 栗駒山麓ジオパーク認定記念フォーラム |
| | 9. 4 | ジオパークぶらり(アプリ配信) |
| | 10. 10 -12 | 第7回日本ジオパーク全国大会伊豆半島大会参加 |
| | 12. 20 | 栗駒山麓ジオパーク学習発表会2016 |
| 2017. | 8. 4 -5 | 第6回東北ジオパークフォーラムin栗駒山麓開催 |
| | 12. 20 | 栗駒山麓ジオパーク学習交流会2017 |
| 2018. | 7. 6 -7 | 岩手・宮城内陸地震10年メモリアル国際シンポジウム開催 |
| | 12. 20 | 栗駒山麓ジオパーク学習交流会2018 |
| 2019. | 3. 29 | 栗駒山麓ジオパーク特設ウェブサイト開設 |
| | 4. 1 | 栗駒山麓ジオパークビジターセンターオープン |

※JGN=日本ジオパークネットワーク

2019. 3 改訂



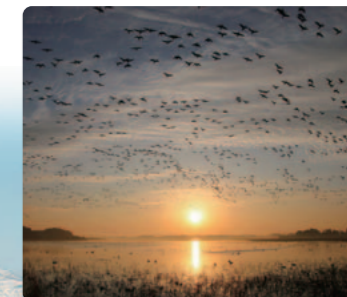
～自然災害との共生と豊穡の大地の物語～

栗駒山麓 ジオパーク

平成20年岩手・宮城内陸地震で被災した、栗駒山麓崩落地の地形・景観を防災教育、学術研究、観光など多目的に活用し既存の観光資源と結びつけながら、ジオパークという手法を活用して持続可能な地域づくりに向けた様々な事業を展開しています。

ジオパークとは

ジオ(地球)に親しみ、ジオを学ぶ旅、ジオツーリズムを楽しむ場所がジオパークです。山や川をよく見て、その成り立ちとしくみに気付き、生態系や人間生活との関わりを考える場所です。足元の地面の下にある岩石から宇宙まで、数十億年の過去から未来まで、山と川と海と大気とそこに住む生物について考える、つまり地球を丸ごと考える場所、それがジオパークです。



自然災害との共生と豊穡の大地の物語



栗駒山麓ジオパーク推進協議会

【お問合せ先】栗駒山麓ジオパーク推進協議会事務局(宮城県栗原市ジオパーク推進室) 〒989-5372 宮城県栗原市栗駒松倉東貴船5番地(栗駒山麓ジオパークビジターセンター内)

TEL: 0228-24-8836 FAX: 45-5936 E-mail: geopark@kuriharacity.jp

ホームページ▶栗駒山麓ジオパーク 検索 Facebookページ▶<https://www.facebook.com/geo.kurikoma>



ホームページ フェイスブック

宮城県 栗原市
栗駒山麓ジオパーク推進協議会

栗駒山麓の地形・地質の特性が生み出す山地災害と人の営み

平成20年
6月14日
8時43分。

その時、とてつもない規模で大地が動いた。姿を変えた山々、破壊された森、そして何より、尊い命を含め、家屋・道路など、あらゆる暮らしの基盤が一瞬で姿を変えた…。

岩手・宮城内陸地震と地形・地質の特徴

地形・地質

東北地方の主軸である奥羽脊梁（おおうせきりょう）山脈は、世界で最も新しい時代の造山帯に属しています。そのため、きわめて細長い（南北500km以上、東西幅は狭いところでは10km程度）地域に、様々な地形・地質要素が入り組み、湿潤な冷温帯特有の多雪と多雨が相まって、激しい浸食環境に置かれる一方で、早春植物群や湿地、峡谷などの多彩な自然環境を形成しました。



基盤地質である先第三系の花崗岩（かこうがん）類の露出はほとんどありません。奥羽脊梁山脈の主体を構成する新第三系の浅海性堆積岩類が隆起し、山脈の骨格を作っています。その上に火山性の堆積物が重なり、溶岩・火砕流・泥流など、その規模・固結度・組成・比重などは極めて多彩です。山麓部には第三紀末から第四紀にかけて形成されたカルデラ構造が多数内在し、その一部に厚い湖成堆積物が堆積しています。このような斜面を河川が深く切り込み、随所に不安定な斜面を創出しています。巨大な地すべり地や大規模な崩壊地はこのような地形地質構成のもとで随所に発達することとなりました。荒砥沢地すべりもこうした条件下で発生したものです。

火山本体



大地と植物の織りなす栗駒山の紅葉

奥羽脊梁山脈栗駒山

(1) 栗駒山本体部

脊梁山脈の構造に火山噴出物が重なる領域
栗駒火山群
火山景観と湿原・紅葉・温泉群が自慢

火山麓部



世界谷地とよばれる泥炭層の湿原には、高山植物が咲き乱れる



土石流発生源となった大規模な山腹崩壊



栗駒五湯は火山活動が織りなす温泉の恵み



日本地質百選にも選定された、荒砥沢ダム上流部地すべり



迅速な被災状況把握が、二次災害防止や復旧復興に繋がる

一迫・二迫・三迫川中流部

(2) 山腹・山麓部

火山性堆積物が脊梁山脈の構造に重なり、それらが深く侵食される領域
山地災害集中地区
峡谷美と巨大地すべりにめげない開拓世界が自慢

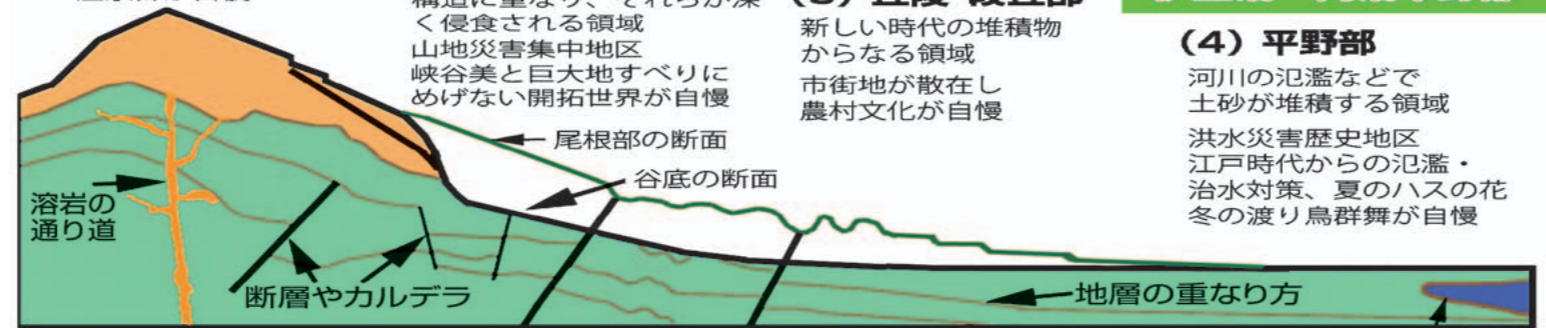
(3) 丘陵・段丘部

新しい時代の堆積物からなる領域
市街地が散在し農村文化が自慢

伊豆沼・内沼平野部

(4) 平野部

河川の氾濫などで土砂が堆積する領域
洪水災害歴史地区
江戸時代からの氾濫・治水対策、夏のハスの花冬の渡り鳥群舞が自慢



火山性の山体崩壊
岩屑流・火山泥流
土石流

溪岸崩壊・土砂ダム決壊
地すべり・大規模地すべり
土石流

小規模な崩壊
稀に氾濫

洪水、湛水
海進堆積物

栗駒山麓：栗駒山から平野部一体の自然と災害の特性

被災直後

復旧状況



火山麓部における被災状況と災害復旧状況

丘陵・段丘部



細倉鉱山 1,200年もの歴史を有する【近代化産業遺産群指定】



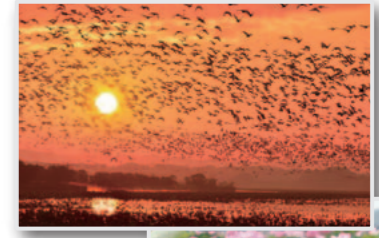
富農の象徴。今もなお約500戸の長屋門が素朴な農村風景を醸し出す



肥沃な土壌で育つ一味違うお米（農村文化【ねじりほんによ】）



坑道を使つての観光事業【近代化産業遺産群指定】



伊豆沼・内沼 江戸時代からの治水対策が育んだ動植物の多様な生態系（ラムサール条約登録湿地）



今では廃線となった“くりはら田園鉄道” 鉱山と人の営みを支えた

災害と防災・減災教育

郷土栗原の平野部では、過去数百年来、伊豆沼などの遊水池造成や河道付け替えなど幾多の工夫で洪水を制御し豊かな耕土を育んできました。そこは今や日本屈指の渡り鳥飛来地としてラムサール湿地に登録されています。今回の山地災害にしても、今後の取り組み如何で豊かな自然再生の起点となることが想像できます。私たちの防災・減災教育は、「自然の変化そのものへの深い理解が、発災時の被害を軽減・回避する知恵の醸成につながる」そのような仕組みを作り、実践することと考えます。

今後の山地災害へ向けて

日本は世界有数の地震大国です。さらに、地質的に脆弱で地殻変動や火山活動などの不安定要因も多いことが知られています。それは、今後、日本国内どこでも同様の山地災害が起こりうることを示しています。本地震災害は、きわめて複雑な地形・地質環境で発生したため、多様な山地災害の形態が確認されました。個々の復旧や森林の回復がどう進展するかは長期的な展望で観察し、考察することが必要です。この経験を語り継ぎ、知恵に変える努力は、今後、発生する類似災害の軽減に大きく貢献するものとなります。

監修：東北学院大学教養学部教授 宮城豊彦
表紙写真：林野庁 東北森林管理局 提供
資料提供：林野庁 東北森林管理局 「山地災害の記録」より